

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01064

研究課題名(和文) 18世紀南米ラプラタ地域のイエズス会布教区に関する洗礼簿と住民名簿の比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of the Baptismal and Census Records of the Jesuit-Guarani Missions in the Rio de la Plata Region of South America during the 18th century

研究代表者

武田 和久 (Takeda, Kazuhisa)

明治大学・政治経済学部・専任准教授

研究者番号：30631626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区のうち、現パラグアイのサンタ・ロサ布教区洗礼簿(1754-64)の記載事項を住民名簿と照らし合わせて浮上した新事実を提示した。重要な論点は次の2点である。(1)この11年間に行われた洗礼式において代父となったグアラニが属したカシカスゴを現存する住民名簿から経年的に辿っていくと、そうしたカシカスゴがサンタ・ロサにおいては歴史的に由緒あるものであった。(2)個々の洗礼記録には新生児の母親が属するカシカスゴが記載されたが、この赤子の成長を住民名簿から辿っていくと、赤子は成人して所帯を持ってからも母親が属したカシカスゴに所属し続けていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先住民を対象とする歴史学的研究には古典的テーマが存在するが、そのうちの 하나가カシケやカシカスゴhに関するものである。これについては、アステカ、マヤ、インカ以外の先住民を対象とする研究はあまり進んでいない。本研究は、これまで等閑に付されてきたラプラタ地域の先住民グアラニに関してカシケ・カシカスゴの観点から研究を行ったものであり、洗礼簿やパドロン(住民名簿)など、ヨーロッパ系の人間が書き残した史料を分析対象とした。こうした史料が内包する情報を分析したことで、巨大文明を作り上げた先住民を中心に行われてきたカシケ・カシカスゴ研究に新たな視座を提示した。

研究成果の概要(英文)：This research is a comparative analysis of the baptismal records (1754-1764) of the Jesuit Mission of Santa Rosa in Paraguay and its census records. The main outcome of the research is as follows: (1) a cross-chronological analysis of census records and baptismal record of Santa Rosa for the purpose of tracing cacicazgo related to the Guarani godfathers revealed a profound relationship between spiritual sponsor and certain distinguished cacicazgo. (2) The cacicazgo to which a newborn child's mother belonged was registered precisely in the baptismal record, and following name and age of these children in the census records enables us to understand that these children, even after becoming adults, kept belonging to the same cacicazgo to which their mothers had membership.

研究分野：歴史学

キーワード：イエズス会 グアラニ先住民 布教区 洗礼簿 住民名簿

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究では、18世紀の南米ラプラタ地域（現在のパラグアイ南東、アルゼンチン北東、ブラジル南部、ウルグアイからなる領域）のイエズス会布教区に関する洗礼簿の分析を通じて、グアラニ語系先住民（以下、グアラニと略記）の伝統的社会組織（カシカスゴ *cacicazgo*）の特質を解明することを主要目的とした。布教区とは、先住民の改宗のために設立された居住地である。グアラニを対象として設立された布教区は1609年から1767年にかけてイエズス会により運営され、18世紀前半には総数30に達し、14万人以上の人口を有した。

研究対象とする洗礼簿については、18世紀中葉以降に作成されたものの存在が一部の研究者の間で知られていたが、カシカスゴの観点からの洗礼簿研究は皆無に等しい状況だった。本研究では、2008年度から継続してきた洗礼簿とは別の史料、住民名簿（パドロン *padrón*）に関わる研究方法や成果を踏まえつつ、新生児の母親の所属カシカスゴの名称がほぼ漏れなく洗礼簿に記載されたことの原因や、代父（*padrino* 新生児の後見人）とカシカスゴとの関係を明らかにした。本研究は、アステカ、マヤ、インカなど巨大文明や帝国を形成した人々にフォーカスしてきた従来の先住民研究とは一線を画し、グアラニという等閑にふされてきた先住民の社会組織を研究対象とした。本研究は、グアラニのカシカスゴがスペイン植民地体制下においても温存された理由とその歴史的な意義を解明するとともに、そもそもスペインの植民地支配の本質とは何であったのかという命題に対し、洗礼簿という未開拓の史料を用いて解答を与えた。

本研究の着想は、パドロンに関する研究を進める過程で浮上してきた。パドロンは、グアラニの伝統的な権力関係や社会組織といった布教区の仕組みを支えた構造を浮き彫りにできる史料である。パドロン関連の研究のさらなる発展に取り組んでいた際、米国の研究者ロバート・ジャクソンの研究を通じて洗礼簿の存在を知り、さらにインターネット検索を経て FamilySearch というサイトの存在もわかった。同サイトにアップされた洗礼簿の史料画像を見ていくと、新生児の母親の所属カシカスゴについての情報がほぼ漏れなく記載されていることから、この情報をパドロン上のカシカスゴの情報と比較することで、新生児の母親が深い関わりを持つカシカスゴが布教区でいかなる社会的な役割や存在感を有していたのかという問題を解明できることに気づいた。また同じく代父についても、代父と同じ苗字を持つ人物がパドロン上のどのカシカスゴに属していたかを経時的に分析することで、特定のカシカスゴから代父が輩出されていたのかどうかという問題も検討できることがわかってきた。

2. 研究の目的

研究代表者は、2008年度（1ヶ月）と2010年度（1年間）にアルゼンチンのブエノスアイレスに滞在し、国立文書館所蔵の史料を渉猟した。その結果、布教区住民の名簿（パドロン）が大量に現存することが判明した。その数は原本・複写を合わせて200を超え、30すべての布教区を網羅し、17世紀中葉から19世紀初頭までのおよそ150年の期間にわたっていた。このパドロンにおいて注目すべきは、カシケ（*cacique* 先住民首長）が支配する伝統的社会組織（カシカスゴ）が一つのユニット（単位）とみなされ、そのユニットに属する先住民がさらに家族単位で列挙されている点であった。パドロン上では、布教区で暮らす個々のグアラニはまず家族ごとに把握され、さらにそれぞれの家族がカシカスゴごとに整理されていた。換言すれば、パドロンに登場する無数の人名をカシカスゴや家族単位で分析することにより、布教区を支えた先住民社会組織の構造が解明できることがわかった。

このような特徴を持つパドロンを分析していく過程で洗礼簿の存在が明らかになった。米国ソルトレイクシティに本部をおく末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）が運営するインターネットのサイト（FamilySearch）には、彼らが世界中で収集した史料群が公開されているが、この中にラプラタ地域のイエズス会布教区関連の洗礼簿が含まれていた。この洗礼簿は18世紀中葉以降に誕生した新生児に対する洗礼記録である。記載事項の中で注目すべきは、新生児の母親が属していたカシカスゴの名称と、新生児の後見人として洗礼式に立ち会った先住民の代父の氏名である。これまでのパドロン研究により、17世紀中葉から19世紀初頭にかけて存在した総数30の布教区全体のカシカスゴと、それぞれのカシカスゴを構成していた家族の内訳についてはデータベースができており、コンピューター上で瞬時に把握できるようになっていた。こうした前提のもと、洗礼簿に対して、カシカスゴの観点からパドロンとの比較分析を行うことで、新生児の母親の所属カシカスゴが洗礼簿に明記された理由や、代父とカシカスゴとの関係という問題の解明が可能になる見込みが出てきた。

先住民に対する歴史学的研究には幾つかの古典的テーマが存在するが、そのうちの一つがカシケやカシカスゴに関するものである。ヨーロッパ人到着前のアメリカ大陸では一人のカシケが自身のカシカスゴに属する人々を支配するという形態が基本だったが、カシケの権力や、その管轄下にあるカシカスゴの規模や機能は地域ごとで差異があった。例えば現在のメキシコ南東部のユカタン半島を中心に活動したマヤ語系先住民のカシケは、土地に対する用役権は行使できたが所有権は持っていなかった。この状況は、メキシコ中央高原を中心にアステカ帝国を築き上げたナワ語系先住民たちの権力の基本概念とは大きく異なる。彼らはヨーロッパ人と同様に土地に対する所有権を持っていた。アンデス地域に関しても、インカ帝国の中心地クスコとその

周辺、現在のボリビアに相当する地域、ペルーの海岸・内陸部など、カシケとカシカスゴの権力規模と機能は地域ごとに多様であった。

カシケやカシカスゴに関する研究は基本的に、こうした上記の先住民との関連で進められてきた。これら先住民に関しては、先住民自身、あるいは先住民と混血した人々が残した史料が一定数現存するため、そうした史料の分析を通じて多くの研究成果が輩出されてきた。しかしその一方で、アステカ、マヤ、インカ以外の先住民を対象とするカシケやカシカスゴに関わる研究はあまり進んでいない。これはひとえに、史料的な制約の問題が大きい、それとは別に、いわゆる先住民系の史料とは別種の史料を用いてカシケやカシカスゴに関する研究ができるかどうか、この可能性を突き詰めることが疎かにされてきたことも原因だった。

本研究は、これまで等閑に付されてきたラプラタ地域の先住民グアラニに関してカシケ・カシカスゴの観点から研究を行うものであり、洗礼簿やパドロンなど、ヨーロッパ系の人間が書き残した史料を分析対象とした。これら二つの史料はカシケやカシカスゴに関する無数の情報を内包しており、これらを抽出・分類・比較することで、巨大な文明や帝国を作り上げた先住民を中心に行われてきたカシケ・カシカスゴ研究に対して新たな視座を提示した。

3. 研究の方法

本研究ではまず、前述の FamilySearch で閲覧可能な洗礼簿に表れる情報を項目別に分類した。洗礼簿の記載事項は一見しただけでは情報の細かな羅列に過ぎない。しかし本研究では、パドロンの研究を通じて培った経験を活かして、洗礼簿に表れる洗礼日、新生児の氏名、新生児の父母の氏名、新生児の母が属したカシカスゴの名称、代父の名称といった情報を整理してデータベースを構築し、とりわけ(1)新生児の母が属したカシカスゴには何か特徴が見いだせるのか、(2)代父となった人物の布教区内における社会的な地位はどのようなものだったのか、この二点の解明に注力した。

さらに、ラプラタ地域とは異なる他のスペイン領アメリカにおけるイエズス会士の活動について調査したところ、現メキシコ北西のパハ・カリフォルニア地方に設けられた布教区や、現ボリビア北東のモホス地方の布教区に関する洗礼簿の存在がわかった。前者については米国カリフォルニア大学バークレー校のバンククロフト図書館にマイクロフィルムとして保管されていること、また後者についてはボリビア、ラパス市のイエズス会ボリビア管区文書館に保管されており、先行研究が存在することも把握できた。ラプラタ地域の域外でイエズス会士が作成していた洗礼簿にも注目することで、グアラニを対象とした洗礼簿の体裁や記載事項がどこまで特徴的だったのかという問題の解明につながる。特にグアラニ対象の洗礼簿については、新生児の母親の所属カシカスゴの名称がほぼ漏れなく記載されている。これは、父親の所属カシカスゴに関する情報が一切出てこないことと対照的である。このことには、グアラニの社会基盤が母系制に根ざしていたがゆえに母親に関する情報が重視され、これが洗礼簿に記録されたという可能性が考えられるが、この仮説の実証には、ラプラタ地域とは異なる地域の先住民の伝統的な社会構造を反映するであろう洗礼簿を分析し、メキシコやボリビアの洗礼簿にはいかなる情報が子細に記録され、他方でどのような情報が取るに足らないとして記録されなかったのか、比較が必要である。こうした異なる地域の複数の洗礼簿の比較を通じて、グアラニのカシカスゴの特質を解明した。

4. 研究成果

本研究の初年度にあたる 2020 年度は洗礼簿からのデータ抽出や整理に集中した。2021 年度からは前年度の研究を踏まえて研究成果を公にしていった。具体的には 2021 年 8 月にヨーロッパを拠点とするラテンアメリカ史研究者が主要メンバーである AHILA (Asociación de Historiadores Latinoamericanistas Europeos) の第 19 回大会が Zoom オンラインで開催され、同月 23-24 日のパネルでスペイン語報告 (Las relaciones de parentesco y cacicazgo guaraní en las misiones jesuitas de Paraguay: el producto híbrido de la colonización y evangelización española) を行った。この報告では 17 世紀後半に作成された住民名簿の余白に断片的に記されるカシカスゴの相続に関する注釈を手掛かりに、首長の祖父母や父母から子や孫へと名前が引き継がれる際の興味深い事例を幾つか紹介した。そうした事例の解釈の仕方についてはさらなる研究が必要だが、イベリア半島起源もしくは先住民グアラニの伝統や慣習との連関が議論の中で浮上し、研究のさらなる深化に向けて有益な知見が得られた。さらに 2021 年 11 月にはギジェルモ・ウィルデ博士とのスペイン語共著論文 *Tecnologías de la memoria: mapas y padrones en la configuración del territorio guaraní de las misiones* が米国の学術雑誌 *Hispanic American Historical Review* 第 101 巻、第 4 号に掲載された (同論文は Conference on Latin American History の選考を経て 2023 年 1 月に James Alexander Robertson 賞を受賞した)。この論文では 18 世紀の作成と推定されるイエズス会布教区の一つヘススの地図と住民名簿との比較検討を行い、地図上に示されるグアラニの苗字が首長管轄下のアバンバエと呼ばれる土地を示す可能性が高いことを指摘した。

2022 年度は日本ラテンアメリカ学会第 43 回定期大会 (同志社大学) において「イエズス会サント・ロサ布教区 (現パラグアイ) 洗礼簿 (1754-1764): 受洗者の母親の所属カシカスゴに関する試論」という題目の下、同布教区洗礼簿に表れる受洗者の母親の所属カシカスゴという情報がいかなる意味において重要だったのかを試験的に報告した。この情報の重要性は、住民名簿 (パドロン) と洗礼簿を比較分析したことで明らかになった。具体的には、新生児の成長過程をパド

ロン上で時系列的に辿ることで、当該人物がどのカシカスゴに所属していたのかを突き止めることができた。興味深いことに、パドロン上で所属カシカスゴをたどれる新生児については、パドロンが現存する少なくとも 1772 年から 1801 年までは、その母が属していたカシカスゴに成人後も同じく所属し続けていたことが明らかになった。すなわち、新生児の属性が母親のそれと紐づけられていたのである。こうした紐づけの起源がどこにあるのかはさらなる研究が必要だが、その当時わかっていたのは、グアラニに特化した現象ではないということである。例えば植民地期中米のグアテマラ総督領に関する研究では、首長身分や納税対象といった属性が母親に備わっている場合、それがその子供に受け継がれていたことが解明されている。このことを考えると、母親の属性を新生児が受け継ぐという状況は広域的な現象だったことが示唆される。

本研究の最終年度にあたる 2023 度は、これまで行ってきた研究発表に対するコメントを踏まえ、研究の集大成となる成果物を査読付き論文としてまとめることができた。具体的には、スペインのバルセロナ大学が発行する学術雑誌 *Boletín Americanista* の第 88 号に、*Libros de bautismos y padrones en las misiones jesuíticas del Paraguay (1754-1764): propuesta para un análisis comparativo* と題するスペイン語論文の掲載が決定した（刊行は 2024 年中）。この論文では、スペイン領南米ラプラタ地域でイエズス会士が建設した布教区のうち、現パラグアイ南東部サンタ・ロサに関わる 1754-64 年洗礼簿の記載事項を、同時期ならびに以降に作成された住民名簿と照らし合わせて浮かび上がってきた新事実を提示した。重要な論点は次の 2 点である。(1) この 11 年間に先住民グアラニの新生児を対象に 1854 件の洗礼が行われたが、その際に代父となったグアラニが属したカシカスゴを現存する住民名簿から経年的に辿っていくと、そうしたカシカスゴがサンタ・ロサにおいて歴史的に由緒あるものだったことが明らかになった。すなわち代父はその役目に相応しい出自を持つグアラニから輩出されていたのである。(2) 個々の洗礼記録には新生児の母親が属するカシカスゴの名称が記載されたが、この赤子の成長を住民名簿から辿っていくと、赤子は成人して所帯を持ってからも母親が属したカシカスゴに所属し続けていたことが明らかになった。これは紛れもなく新生児の属性が母親に紐付けられていたという事実の反映である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Guillermo Wilde, Kazuhisa Takeda	4. 巻 101 (4)
2. 論文標題 Tecnologias de la memoria: mapas y padrones en la configuracion del territorio guarani de las misiones	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hispanic American Historical Review	6. 最初と最後の頁 597-627
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1215/00182168-9366584	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuhisa Takeda	4. 巻 88
2. 論文標題 Libros de bautismos y padrones en las misiones jesuiticas del Paraguay (1754-1764): propuesta para un analisis comparativo	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Boletin Americanista	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 イエズス会サンタ・ロサ布教区（現パラグアイ）洗礼簿（1754-1764） 受洗者の母親の所属カシカスゴに関する試論
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会第43回定期大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuhisa Takeda
2. 発表標題 Las relaciones de parentesco y cacicazgo guarani en las misiones jesuitas de Paraguay: el producto hibrido de la colonizacion y evangelizacion espanola.
3. 学会等名 XIX Congreso de AHILA (Asociacion de Historiadores Latinoamericanistas Europeos) 23 y 24 de agosto de 2021 (Online, Zoom) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ウィルデ ギジェルモ (Wilde Guillermo)	アルゼンチン国立サンマルティン大学・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
アルゼンチン	CONICET			